

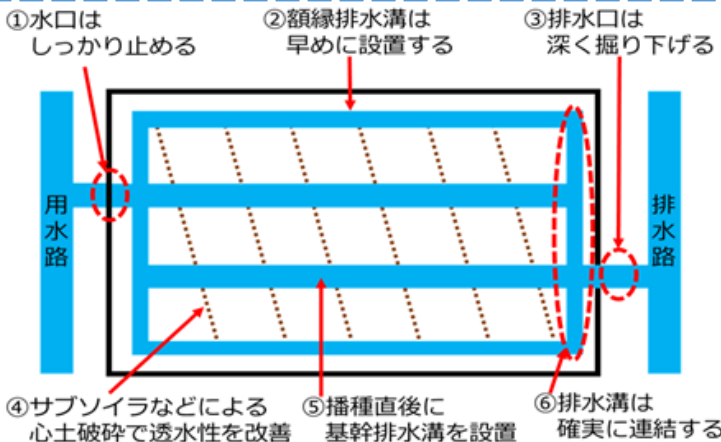
早めに確実な排水対策を徹底するとともに、土づくりや10月上旬を中心とした適期播種等により、適正な苗立数を確保し、高品質大麦の生産を目指しましょう！

1 排水対策の徹底 ～ほ場の乾きを促すため、稲刈り後、速やかに額縁排水溝を設置！～

大麦は、生育期間を通して湿害に弱いため、排水や砕土率の良し悪しが、その後の生育に大きく影響します。水稻早生品種作付け後の水田を積極的に活用し、稲刈直後から排水対策を確実に実施しましょう。

【排水対策のポイント】

- ①水口はしっかり止め、暗渠排水の蓋を外す。
- ②額縁排水溝は、幅30cm、深さ20cm以上のしっかりとした溝に仕上げる。
- ③溝に水が溜まらないよう、排水口を低く掘り下げるとともに、排水溝と確実に連結する。
- ④透水性の向上のため、心土破碎（深さ30～40cm）を実施する。
- ⑤播種直後に基幹排水溝を設置し、額縁排水溝とつなげる。



2 土づくり・基肥 ～土づくりの実践や的確な基肥施用で適正な生育量に誘導！～

- ・酸性土壌では大麦の生育が不良となるため、pH6.0～6.5を目標に、確実に石灰質資材を施用しましょう。
- ・また、積極的に堆肥等の有機物を施用しましょう。

表1 土づくり資材の目安

資材名	施用量 (10a当たり)
苦土石灰	100～140kg
発酵鶏糞ミックス	60kg

表2 基肥の目安

区分	基肥名	施用量 (10a当たり)
肥効調節型基肥栽培	エコ大麦44号	45kg
分施栽培	基肥555	40kg

3 適正な播種 ～播種は慌てず10月上旬を基本に計画的に行い、遅くとも10月中旬までに完了！～

(1) 種子消毒

- ・雲形病等の発生を防ぐため、種子消毒を必ず実施しましょう。
〔「ベンレートT水和剤 20」を乾燥種子重量の0.5%湿粉衣
(乾燥種子10kg当たり200mlの水を加え、薬剤50gを均一に混ぜる)〕

(2) 播種作業

- ・播種は必ずほ場が乾いた状態で行い、耕起・播種・作溝までの一連の作業は1日で完了させましょう。
- ・トラクターの速度を低速にし、できるだけ細かく砕土しましょう。
- ・播種時期・播種方法に応じた播種量とし、目標の苗立数を確保しましょう(表3)。
※降雨などの土壌水分が高い条件での播種は、苗立不良や初期分げつの減少につながるため、慌てず、土が乾くのを待ってから播種を行いましょう。
- ・ドリル播きの場合、出芽・苗立ちを揃えるため、播種深度は3cm程度とし、確実に覆土しましょう。

表3 目標苗立数と播種量の目安

播種時期	目標苗立数 (本/㎡)	播種量の目安(10a当たり)	
		ドリル播き	表面散播
9月26～30日	140	6.0kg	6.5kg
10月上旬	150	6.5kg	7.0kg
10月中旬	200	8.5kg	9.0kg

※播種が遅くなる場合は、播種量を増やしましょう。

大豆の収穫作業等との競合が予想される場合は、大麦の播種が遅れないよう事前に調整しましょう。

4 雑草防除 ～除草剤の的確な使用により、生育量を確保！～

【除草剤の使用時期と量の目安】 ※土壌表面散布除草剤はドリル播き限定です！

土壌表面散布除草剤	適用草種	使用時期	使用量(10a当たり)	使用上の注意
トレファノサイド粒剤2.5	1年生雑草(ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	播種後出芽前	4～5kg	・播種深度が浅く、種子の露出が多い場合は、使用を避ける。 ・散布直後に多量の降雨が予想される場合は散布を控える。
トレファノサイド乳剤		播種後出芽前	200～300ml/1000	
キックボクサー細粒剤F	1年生雑草	播種後出芽前	3～4kg	
ボクサー	1年生雑草	播種後～麦2葉期	400～500ml/1000	
リベレーターフロアブル	1年生雑草	播種後～麦3葉期	60～80ml/1000	

例年、カラスノエンドウが発生するほ場は、カラスノエンドウへの効果がある「リベレーターフロアブル」や「ボクサー」を散布しましょう。